

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス はるるん				公表日	令和8年3月27日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		集団のスペースに加え、個室2部屋を活用している。	個室を学習やクールダウンのスペースとして活用できるとよい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員は適切に配置している。	現在、男性職員がアルバイト1名なので8月より男性職員を採用する事が決まっている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	部屋全体が見える空間になっている。	駐車場から部屋に入るまでに階段があるため児童によっては補助が必要になる。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		朝、夕消毒液を使い掃除を徹底している。また、個室を使うことで遊びと学習の空間を分けることも出来る。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		児童の状態に合わせて宿題やクールダウン、療育等で使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日の朝礼、週一回の支援者会議を徹底している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者評価表の意見や要望を確認し、改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所内のミーティング、法人内の個人面談があり、意見や考えを伝える事ができる。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		外部からの評価を受けることが出来るように、今後検討を行っていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		事業所や法人内の研修、外部研修にも積極的に参加している。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		電話や面接にて目標や要望を伺っている。また、定期的にあセスメントや会議を実施し計画書を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		モニタリング会議を実施し、全職員の意見を聞いて、共通理解の下で個別支援計画を作成している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画を共有する時間を設けている。また、計画書はいつでも確認できるようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			適応行動の変化や成長に伴い再確認する必要がある。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		保護者の意見や考えを聞いたうえで支援計画を作成している。	今後は、保護者面談を実施予定。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		様々な体験や経験が出来るように工夫している。また、児童の状態に合わせたプログラムになるように工夫している。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		小グループによる活動や集団活動を状況に応じて提供している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝打ち合わせを行い、送迎や療育等の確認をしている。また、変更がある際の確認作業も確実にしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			緊急の場合以外は、翌日の支援前に打ち合わせを行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日、記録を作成している。また、記録を読み返す等して児童への対応に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		担当者会議の前にモニタリング会議を行っている。児童の状況によっては期間を短くして見直す場合もある。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		様々な児童に対応するプログラム作りを心掛けている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	○		児童自ら活動を選ぶ機会を設けている。また、療育の場面でも学習プリントを決めることができるように支援している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		全職員で情報の共有をして児発官が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて医療機関と連携して会議等を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者を通して、学校行事や下校時間等の把握を行っている。また、学校送迎時に先生との情報交換ができています。	学校によっては引継ぎを受けなかったり理解や協力が差がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		利用開始前の引継ぎ会議に参加している。また、情報は計画相談や保護者から提供してもらっている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		卒業後に利用する事業所へ情報提供を行っている。また、移行後も要望があれば面会に行く場合もある。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		法人内の発達障がいセンター主催の研修に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		他の放課後等デイサービスとの交流はある。	現在のところ近隣の学童保育等との交流は出来ていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		広川町障がい者自立支援協議会の子ども支援部会へ参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		利用時には、こどもの状況や活動の様子を伝えている。詳しく報告ができるように関わった職員が送迎に行くように心掛けている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者参観を行い療育や普段の様子を見てもらう機会を作っている。	家族支援プログラムは行っていない。今後できるようにしたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明を行っている。支援プログラムを見直した際にも説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		会議や保護者との意見交換を日頃から行い、ニーズに応じた個別支援計画を作成し、サービスを提供している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、直接話が出来ない時は電話で説明する場合もある。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		その都度対応している。必要に応じて計画相談や学校を含めた支援になる場合もある。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者参加のイベントを行い交流を図っている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付窓口を公表している。また、LINEを活用して24時間受付ができる体制をとっている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページや地域の情報サイト(まいぶれ八女)を活用して活動の様子等を配信している。活動や行事予定の連絡はLINEを使い行っている。	SNS等を活用している事自体を知らない保護者の方がいるので、今後周知していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		写真掲載の可否は、丁寧に説明を行い確認を行っている。また、個人情報の取り扱いは契約時に説明を行っている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		情報伝達がスムーズに行えるようにLINEにて24時間受け付ける体制をとっている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを作成し、各分野で問題発生を想定した訓練や研修を実施している。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し研修、訓練を行っている。また、非常災害に備えた訓練も定期的に行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		事前アセスメントで服薬やてんかん発作等の状況確認をしている。	予防接種の確認は出来ていない。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師からの指示書は頂いてないが、保護者から直接伺っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、計画に基づき研修や訓練等を実施している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			家族等への周知が不十分な所があるので、今後周知を徹底していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を活用している。	再発防止策についての話し合いを徹底していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		事業所内で研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		他害行為のある児童を個室に誘導する際には、保護者への説明を必ず行っている。		